

場所 長野県上水内郡信濃町

面積 11ha

活動目的 社員、地域住民の癒しの場、緊急時の避難場所、社員の創造性をはぐくむ場、そして豊かな自然環境の保全と人間との共生を目的としています。



サイト概要

長野県と新潟県の県境付近に位置する信濃町は周りに北信五岳を望む標高671mの高原で豊かな生態系を有する里地里山の景観で特徴づけられます。当社は森と畑を合わせて11ヘクタールの敷地を所有し、社屋には本社機能を中心に約100名の社員が勤務しております。森林は50年以上を経過した自然度の高いノリレやコナラの落葉広葉樹二次林、農地であったところに再生したハンノキ、ヤナギ類、オニグルミ、ヤマグワの樹林、また、カラマツ、スギといった針葉樹の人工林もパッチ状に存在し、森の周辺は牧場や農地が広がり集落も点在しております。標高や緯度のバランスから高原性、平地性、森林と里地里山など様々な環境が複雑にからみあったエリアのため非常に多様性に富んだ生態系を有しております。また、敷地内には小川が流れ、湧水、池もあり、多種多様な生物の生育地・生息地となっております。夏は比較的冷涼な気候、冬は豪雪地域でもあります。このような特殊な環境のため、絶滅危惧種なども多く、サクラソウをはじめトウキョウダルマガエル、モリアオガエルなど様々な種類が生育・生息しております。

当社はこのような森をエリアごとに調査をすすめそれぞれの管理方針を定め、人と自然の共生を目指しております。

土地利用の変遷 当社が土地を取得する以前の2013年までは他社の工場跡地で鉄筋の建物が放置されたままで、森も全く管理されておらず手つかずの状態でした。2014年以降は信州大学教育学部森林生態学研究室とともに調査、管理を少しずつ進めて参りました。

サイト周辺の環境 黒姫山のふもとに位置し、周辺は牧場や農地、一級河川の鳥居川が流れ、集落が点在しております。農地は稲作、そば、特にトウモロコシの栽培が盛んなエリアになります。また、当社と同様の森が少し距離を置きながら点在しております。

アピールポイント サイト概要にも記載の通り、地理的、緯度的な環境に加え、非常に多様な生態系を保有しています。定期的な生態系の把握調査と保全・活用を行うとともに、森の熟成度に合わせた管理をすることで、森を利用しながら生態系を保全する共生を目指した活動に取り組んでおります。信州大学教育学部森林生態学研究室とは、協働による正確な生態系の把握を行うとともに、定期的に会議を開催し、イベントや管理などのコミュニケーションをとることで相互理解を深めながら社員教育や短期的、中長期的なサイトの利用について議論をしております。管理エリアにおいては社員や地域の方が利用できる施設の設置も検討しております。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

黒姫山のふもとに位置し、森の近隣は牧場と農地である。対象サイトエリア内は森林、畑、草地、小川など、里山の要素を有した環境がモザイク状に形成されている。森林は土壌の水分条件や過去の利用状況に応じて、多様な広葉樹で構成され、針葉樹の人工林もみられる。敷地内には小川が流れており、湧水やため池もみられ、多様な水環境を併せ持つ。また社屋や道路、畑地周辺は常に草刈りがなされ、開放的な環境も存在する。

【主な植生】

里山林：ハルニレ林、コナラ林、ヤナギ林、ハンノキ林など

人工林：スギ林、カラマツ林

畑地・草地：ブドウ畑

【確認された主な動植物など】

植物465種、鳥58種、昆虫407種、両生類、爬虫類、ほ乳類20種



写真の説明：ニリンソウが咲く草地とサンクゼールの森



写真の説明：リュウキンカが咲く土のままの水路

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

かつては里山として利用されてきた樹林環境が残されており、在来の動植物からなる生態系が存在する。なかでもサイト北部および南部の森林は自然度の高く、ハンノキやハルニレ、キハダなど長野県が多雪地にみられる湿性の樹林が形成されている。またそれらを含めた林床には、アズマイチゲ、キクザキイチゲ、ニリンソウといった春植物も広がっている。

ため池にはモリアオガエルやクロゲンゴロウ、草地には昆虫類の絶滅危惧種の生息が確認されている。またサイト内の樹林にノスリが営巣していることも、里山の豊かな生態系が存在する証となっている。

【主な植生】

里山林：ハルニレ林、コナラ林、ヤナギ林、ハンノキ林など

人工林：スギ林、カラマツ林

畑地・草地：ブドウ畑

【確認された主な動植物など】

植物465種、鳥58種、昆虫407種、両生類、爬虫類、ほ乳類20種

○供給・調整サービス

敷地内では湧水が見られ、農業のための用水路に流入している。

森林は除伐や小エリア伐採などを実施しながら森林更新を促している。

伐採した木材を燃料や家具などに加工する試みも行っている。

○文化的サービス

信州大学との取り組みにおいて遊歩道の整備、社内の自然観察会（子供、家族も参加）、

地元林業者による伐採見学会と木の大切さのレクチャー、

近隣のアファンの森財団との交流会、山階鳥類研究所による野鳥観察会などを開催している。



写真の説明：アズマイチゲ（春植物）



写真の説明：サイト内に営巣しているノスリ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

<植物>

①⑦人工池（湧水あり） その他は、多様な樹木から構成される樹林内の下層

<動物>

①②⑤⑥⑦ため池、人工池（湧水あり） ③ハンノキ、オニグルミなどの湿性の樹林

④ハルニレを含む樹林環境 ⑨11,12,13,14畑地脇などの開けた草地環境

【確認された希少種】

<植物>

①イチヨウウキゴケ（環境省NT）②コシジドコロ（長野県EN）③ホソバナアマナ（長野県NT）
④ギンラン（長野県NT）⑤アケボノシュスラン（長野県NT）⑥コケイラン（長野県NT）
⑦ミクリ（環境省NT、長野県VU）⑧ナガミノツルケマン（環境省NT）⑨フクジュソウ（長野県NT）
⑩マンセンカラマツ（環境省EN,長野県N） 11.ヤマシャクヤク（環境省NT,長野県EN）
12.サナギイチゴ（環境省VU,長野県N） 13.サクラソウ（環境省NT,長野県VU）

<動物>

①トウキョウダルマガエル（環境省NT,長野県VU）②モリアオガエル（長野県NT）
③ノジコ（環境省NT,長野県NT）
④ヨツモンカメムシ（長野県NT）⑤クロゲンゴロウ（環境省NT,長野県NT）
⑥ガムシ（環境省NT,長野県NT）⑦コガムシ（環境省DD,長野県N）
⑧オオヒラタハナムグリ（長野県NT）⑨スジグロチャバネセセリ（環境省NT,長野県NT）
⑩ヘリグロチャバネセセリ（長野県NT）11.ヒメシジミ（環境省NT,長野県N）
12.ウラギンスジヒョウモン（環境省VU,長野県NT）13.クロマルハナバチ（環境省NT,長野県NT）
ほか



写真の説明：サクラソウ（環境省NT,長野県VU）



写真の説明：ノジコ（環境省NT,長野県NT）

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

- ①②自然度の高いのハルニレ、コナラ等の樹林 ③里地里山の環境
- ④畑地や造成地周辺の草地 ⑤スギの植林および周辺の農耕地
- ⑥ハンノキ、オニグルミなどの湿性樹林 ⑦里地里山の草地

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

- ①ツキノワグマ：移動（行動圏）
※ツキノワグマとの共生を目指すため、締め出すのではなく、クマが移動経路として森を利用するあり方を模索。一方で敷地内にクマがねぐらをつくらないように、混み合った下層植生をなるべくなくすよう努める。
- ②ニホンイタチ：繁殖、採餌
- ③キツネ・タヌキ：採餌
- ④ハタネズミ：繁殖、採餌
- ⑤ノスリ：営巣、繁殖（毎年）、採餌
- ⑥ノジコ：繁殖、採餌
- ⑦キジ：繁殖、採餌
- ⑧モリアガエル：産卵



写真の説明：ニホンイタチ（センサーカメラで撮影）



写真の説明：モリアガエルの卵塊（池に張り出した枝）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>植生をベースに自然環境に応じて、おおまかにゾーニングし、整備の方向性を出している。現在、将来の施設計画も鑑みながら、さらに具体的な検討を行なっている。</p> <p>ゾーニングは「自然保全エリア」「手入れ・活用エリア」「しっかり管理エリア」としている。「自然保全エリア」は人為的な整備は最小限とし、現存する自然環境を活かす。「手入れ・活用エリア」は、自然環境を活かしつつ、人々が森に親しむ場としても整備する。樹種転換なども視野に入れる。</p> <p>「しっかり管理エリア」については土地造成など人為的影響が大きく帰化植物が密度高くみられることから、当面、頻繁な草刈りを実施して管理する。</p> <p>2023年は「手入れ・活用エリア」内のカラマツを一部伐採し、今後広葉樹林の森づくりを試行的に実施する。</p> <p>「自然保全エリア」では、社員や来訪者がサイト内の自然環境に触れるためのひとつの手段として、園路を整備している。園路ルートについては、これまでの調査に基づいて検討を行い、2023年は南の自然保全エリアに園路を開通させた。今後も園路整備を進める。</p> <p>このような森の整備に際して、社員有志を募り、園路の草刈りや整備、石拾いなども実施しており、今後も進めていく。これは整備を兼ねて交流を深めたり森と親しむ機会となっている。また毎年、社員向けの自然観察会を実施し、森の生物多様性について学びの機会となっている。</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>①春植物：アズマイチゲ、キクザキイチゲ、ニリンソウ ②サクラソウ ③哺乳類（鳥類） ④森林植生の再生 ※このほか随時、踏査による確認を行っている</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>①「手入れ・活用エリア」内2箇所 ②「手入れ・活用エリア」内3箇所 ③「自然保全エリア」内2箇所 ④カラマツ伐採地1箇所 ※このほか随時、踏査による確認を行っている</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>①②定点調査区における開花数調査 ③センサーカメラによる定点観測 ④毎木調査 ※このほか随時、踏査による確認を行っている</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>①4月下旬 1回/年 ②5月中～下旬 1回/年 ③3,4月～12月 ④カラマツ伐採地は10月 ※2024～2025年に、農地を中心に植物相、動物相の追加調査（全種対象）を予定している</p> <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>信州大学教育学部森林生態学研究室</p>